

第4回日本訪問歯科医学会

『患者さん本位の訪問歯科・口腔ケア』

日 時：平成 16 年 11 月 21 日（日）
場 所：東京国際フォーラム ホールD

プログラム

1. 特別基調講演 『アメリカから見た世界のトレンド』
アメリカ歯科医師会（ADA）第140代会長
Eugene Sekiguchi.DDS
2. 特別教育講演 『在宅要介護高齢者に対する摂食機能療法』
日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田 耕一郎先生
3. 一般講演 『利用者と介護者が望む訪問口腔ケア』
株式会社ジャパンケアサービス取締役部長 浦谷 馨氏
4. 協会講演 『訪問歯科診療の現場でのメディカルインタビュー』
近藤歯科医院（宮城県） 院長 近藤 公一郎先生

『アメリカから見た世界のトレンド』

アメリカ歯科医師会 (ADA) 第 140 代会長

Eugene Sekiguchi.DDS

(Dr ユージン セキグチ)

- ・ 変わる歯科医師像、拡大する歯科医療の役割
- ・ ニーズ高まる審美歯科 拡大する健康格差
- ・ 唾液検査等の新技術で歯科医は「全身医」に飛躍
- ・ 役割拡大に向けた教育の大変革が急務
- ・ 全身の健康寄与で医療費シェアは拡大

【略歴】

Eugene Sekiguchi.DDS

(Dr ユージン セキグチ)

- ・ 米国カリフォルニア州モンテレーパーク開業医
- ・ カリフォルニア歯科医師会暫定常任理事
- ・ American Dental Association (アメリカ歯科医師会) 第 140 代会長歴任
- ・ 南カリフォルニア大学臨床教授
- ・ 南カリフォルニア大学 International Professional and Legislative Affairs 副学部長
- ・ ADA (アメリカ歯科医師会) における当会組織体制および予算処理関連主要委員、代表歴任
- ・ 元カリフォルニア歯科医師会会長
- ・ サン・ガブリエルバレー歯科協会会長
- ・ American and International Colleges of Dentistry
フェローおよびピエールフォシャルアカデミー特別会員
- ・ 南カリフォルニア大学ロスアンゼルス校より
Doctor of Dental Surgery (DDS) 及び
Master of Science in electrical engineering (MSEE 電気工学修士) 授与
- ・ カリフォルニア大学バークレー校より
Bachelor of Science in electrical engineering (BSEE 電気工学理学士) 授与

『在宅要介護高齢者に対する摂食機能療法』

日本大学歯学部摂食機能療法学講座
植田 耕一郎

2000年に要介護高齢者は280万人であったのが、わずか3年で300万人を超えました。高齢化が加速する社会環境の中、歯科医療も新たな局面を迎えています。長寿が達成できた現在、生きる質が問われています。

在宅医療の中で、どうしても直面する古くて新しい問題が「摂食・嚥下障害」です。185点の摂食機能療法は、たしかに、診療所の先生にとって、経営的、人的、物的にも医療効率が良いとはいえません。しかし、今、歯科医療従事者が真正面からそれに取り組まなかったのならば、一体誰が「食事」の問題に因應なのでしょう。超高齢化社会を背景に、今回は、以下の点について検討してみたいと思います。

1. 要介護高齢者における摂食・嚥下障害の実態
2. 診療所と訪問で行う摂食機能療法のリスク管理
3. 在宅医療で展開するチーム医療
4. 介護予防に果たす歯科の役割

私は病院勤務ですが、在宅や施設への訪問診療、そして診療所での外来診療など、それぞれの現場で展開されている内容との相互間のギャップが埋められ、実践的な話し合いの場がもてれば幸いです。

【略歴】

植田 耕一郎

昭和58年3月 日本大学歯学部卒業
昭和62年3月 日本大学大学院歯学研究科修了
平成2年6月 東京都リハビリテーション病院 歯科 医員
平成11年4月 新潟大学歯学部加齢歯科学講座 助教授
平成16年4月 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授
現在に至る

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会監事，評議員，編集委員
日本障害者歯科学会学術委員
愛知学院大学歯学部非常勤講師
東京医科歯科大学歯学部非常勤講師

『利用者と介護者が望む訪問口腔ケア』

株式会社ジャパンケアサービス
スーパーバイザーグループ取締役部長
浦谷 馨

在宅介護サービスに携わる立場の人間として痛切に感じているのが、高齢になっても健康に暮らしつづける知識と方法をいかに私たちが知らないかということである。

介護保険制度がスタートして、確かに在宅介護サービスは普及した。しかし、介護サービスは所期の目的を果たしていないのではないかという指摘を受けている。つまり、要介護状態の改善が見られていないのではないかということである。

介護サービスが要介護状態の改善に結びついていない原因はさまざまあるが、その基本的なものとして、要介護高齢者の状態を改善するための最適なサービスが使われていないということがある。

要介護状態になる要因として現在、注目されているものの1つに、「低栄養」がある。「低栄養」を改善するためには、栄養のある物をまんべんなく食べればいいのだが、高齢者の場合、何を食べるかという前に「うまく食べられない」という問題が立ちはだかっている。「歯があるなら、あるなりに」「歯がなければ、ないなりに」どうやって食べればいいのか。いや、その前に、口の中ケアが不十分で、食べ物そのもののおいしくなく、食欲がないと訴えている利用者には、どうすればいいのか、利用者だけでなくあらゆる介護者が、解決方法を求めている。

もはや、現在の要介護高齢者は、単に歯の治療のみを求めているのではなく、おいしく食事をするためにはどうすべきか、という生活に即したニーズを訴えているのだ。それに応える訪問口腔ケアサービスの登場を私たちは求めている。

【略歴】

浦谷 馨

- ・株式会社ジャパンケアサービス本社スーパーバイザーグループ 取締役部長
- ・特別養護老人ホームの介護員として従事した後、ジャパンケアサービスに入社後、在宅介護サービスに携わる。
- ・介護福祉士、介護支援専門員
- ・地域ケア政策ネットワーク・福祉自治体ユニットの委員として、平成15年度介護報酬改定の要望案の立案に携わり、訪問介護の類型の見直しの提案を行う。
- ・平成14年12月、第1回日本ケアマネジメント学会にて「居宅サービス事業者がとりくむケアマネジメントの可能性」と題する発表を行う。
- ・厚生労働省、老健局長の私的研究会「高齢者介護研究会」の事務方委員として参画
- ・平成15年度 平成16年度 介護相談員 指導員

『訪問歯科診療の現場での メディカルインタビュー』

近藤歯科医院院長
近藤 公一郎

「メディカルインタビュー」未だ聞きなれない言葉ではありますが、今の学生や若い先生方には我々が言う「問診」の代わりに使われている言葉である。

「メディカルインタビュー」は「問診」よりさらに奥の深い、さらに意味を持つ Global Standard の用語となってきた。

「メディカルインタビュー」は、歯科医師と患者さんの間の信頼を深め、診断・治療のレベルを高める医療面接であるが、訪問歯科診療では患者さんを取り巻く関係者とのつながりまで考慮したさらに高度なレベルが必要とされる。

今回訪問歯科診療に日々取り組んでいる経験豊かな協会員の先生やスタッフにご参加いただき、ブロック研修会でメディカルインタビューワークショップを開講した。

その背景や学習プログラム、望まれる姿勢というのは一体どのようなものなのか私たちが分析、討議を重ねた結果を紹介したい。

【略歴】

近藤 公一郎

昭和 63 年 岩手医科大学歯学部卒業
昭和 63 年 岩手医科大学歯学部口腔外科学第 2 講座入局
平成 1 年 河南病院歯科部長
平成 3 年 近藤歯科医院開設
平成 10 年 アメリカテキサス州大学短期留学
平成 13 年 岩手医科大学歯学部非常勤講師
日本訪問歯科協会常任理事
平成 14 年 米国レーザー学会認定カテゴリー 取得
平成 15 年 (社)宮城県歯科医師会理事
平成 16 年 近藤歯科医院 ISO9001 認定(2000)取得,
(宮城県内初)

日本訪問歯科協会常任理事

日本口腔外科学会会員

日本ヘルスケア研修研究会会員

包括的歯科研究会常務理事

(財)日本歯科研究研修会会員

U.S.C 南カリフォルニア大学歯学部同窓会 Century Club 日本部会会員

歯科感染症を考える会会員

ライトスピード日本公認インストラクター

一般臨床矯正学会会員

日本顎咬学会会員